

日常災害の発生頻度把握のための研究

—住宅の浴室における事故の発生頻度について—

正会員○長谷川敦志*1 同 三村由夫*2 同 古瀬 敏*3 同 菊池志郎*4
同 宇野英隆*5 同 遠藤佳宏*6 同 丸田 隆*7 同 直井英雄*8

1. はじめに

一昨年・昨年の報告に続き、本年は住宅の浴室における事故の発生頻度について調査を行ったので、その結果を報告する。

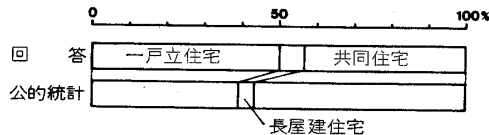
2. 調査の概要

- (1) 調査対象 東京都区内に居住する世帯のなかから無作為に1061世帯を抽出し、対象とした。
- (2) 調査方法 調査用紙を世帯主宛に郵送し、回答及び返送を依頼した。途中1回督促状を郵送した。
- (3) 調査時期 1982年8月～9月
- (4) 調査項目 表1に調査項目を示す。

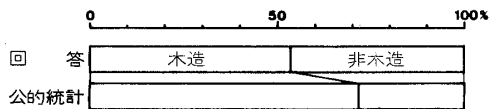
3. 調査結果

発送1061通から未着38通を除く1023通のうち返送されたもの467通、回収率45.7%であった。このうち、無効9通を除く、458通を集計の対象とした。集計・分析結果のなかから数例をグラフで示す。

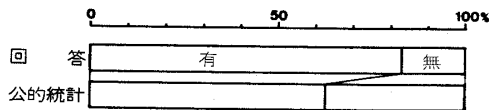
1. 住宅の形式



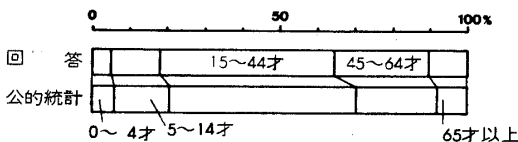
2. 住宅の構造



3. 浴室の有無



4. 居住者の年齢



注 公的統計(都23区)のうち、1~3は「住宅統計調査」(昭和53年)、4は「住民基本台帳」(昭和57年)を用いた。

図1. 回答と公的統計の比較

表1. 調査項目

A. 住宅の概要	①一戸建、長屋建、共同住宅の別
	②建物構造 ③浴室の有無 ④居住者の年齢・性別
B. 浴室の概要	①浴室の仕上 ②ガラスの使用量
	③浴槽のタイプ ④浴槽の材質 ⑤浴室の設備
C.	入浴回数・時間
D.	対象浴室での事故発生回数とけがの有無(1年間)

図1は、回答のあった住宅及び居住者の構成を公的資料と比較したものである。

図2は、浴室内の事故を集計したものである。

図3は、母数としての浴室の属性を、図4は同じく、入浴回数、時間を集計したものである。

図5、6は、これらの母数と事故件数から発生頻度を求めたものである。

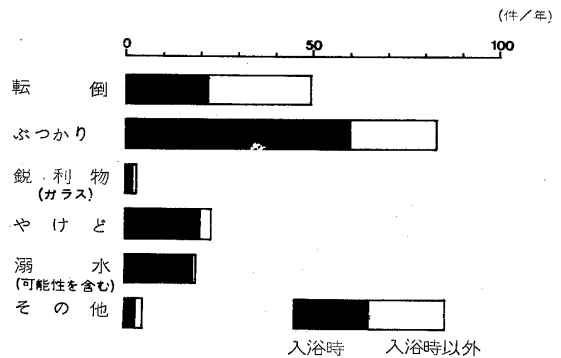
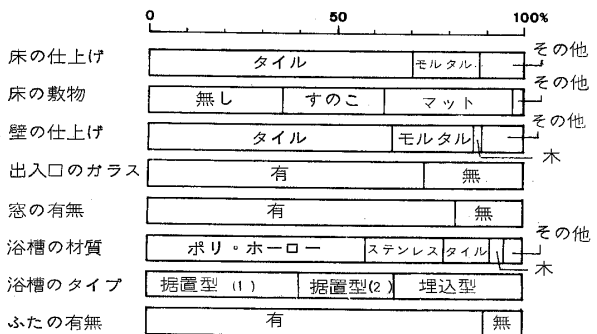


図2. 事故の種類別件数



注 浴槽(1)は、床が平らなもの。浴槽(2)は、床に段差があるもの。

図3. 浴室の属性

4. 考察

図1により、今回の回答と公的資料を比べると、住宅の形式では戸建が、構造では非木造が、浴室の有無では有とするものが多い。また年齢別では、全体に高齢層にやや片寄っている。これは、木造アパート等に住む若い居住者からの回答が少なかつたためと推察される。

図2により、事故種別をみると、「ぶつかり」が最も多く、次いで「転倒」が多い。入浴時と入浴時以外でみると、「転倒」と「ぶつかり」では入浴時以外にも事故がかなり生じている。ここから、「転倒」「ぶつかり」が洗濯や浴室の清掃など入浴行為以外の行為においても生じていることがうかがわれる。逆に、「やけど」「溺水」は入浴時に集中しているが、これらは、入浴行為との関係が密接であるためであろう。

図4によると、全体的に、入浴回数では年齢による差が少なく、1回当りの入浴時間では年齢が高くなるほど入浴時間が長く、その結果、入浴総時間も長くなる傾向が見られる。

性別でみると5才以上では、入浴回数はそれ程変わらないが、1回当りの入浴時間は男性より女性のほうが長い。一週間当りの入浴総時間も女性のほうが長く

なっている。

夏、冬を比べると、0~4才は夏、冬で入浴回数の差が大きく、入浴時間の差が小さいため入浴総時間に差がでている。5才以上では、両者が打ち消し合うため、夏、冬の入浴総時間の差はあまりない。

図5、6で事故を入浴時と入浴時以外と比較すると、全体的に入浴時が多いが、45~64才の女性だけは逆になっている。これは、この年齢の女性が入浴以外の目的(洗濯等)で浴室内に入ることが多いためと思われる。

年齢別では、幼児の事故が圧倒的に多く、老人の事故がこれに次ぎ、時間当りでも変わらない。これは日常災害全体の年齢別発生傾向⁽³⁾と同じ傾向である。

なお、事故と浴室の属性の間には、今回の調査では明確な関係はみられなかつた。

5. おわりに

この調査では、ごく一部の発生頻度を求められなかつたが、母数のデータだけでも今後の参考資料になると考え、まとめることとした。

調査にあたっては、小出直樹氏および、橋本文夫氏の協力を得た。

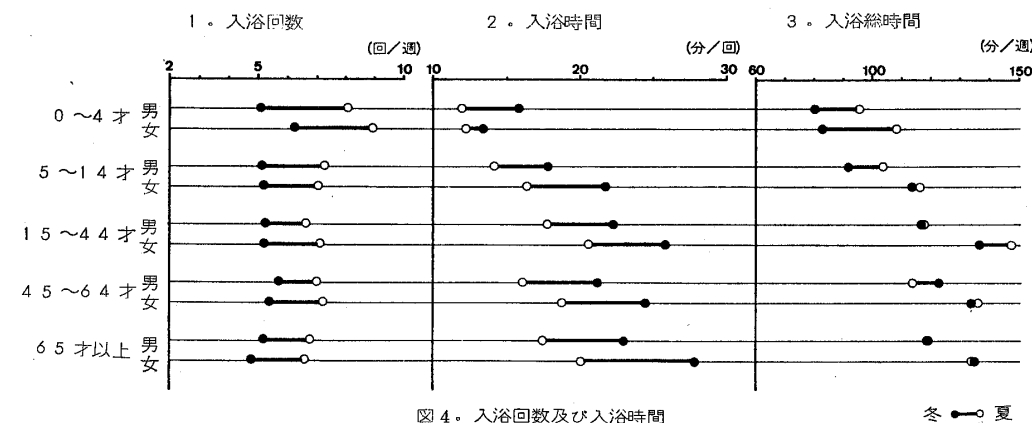


図4. 入浴回数及び入浴時間

- (1): 56年建築学会大会
梗概集 5055~5057
- (2): 57年建築学会大会
梗概集 5345
- (3): 55年建築学会大会
梗概集 5236

- *1. 東京理科大学 補手
- *2. 建設省建築研究所
研究室長 工博
- *3. 同主任研究員
- *4. 同助手
- *5. 千葉工業大学
教授 工博
- *6. 同助手
- *7. グラフス
- *8. 東京理科大学
助教 工博

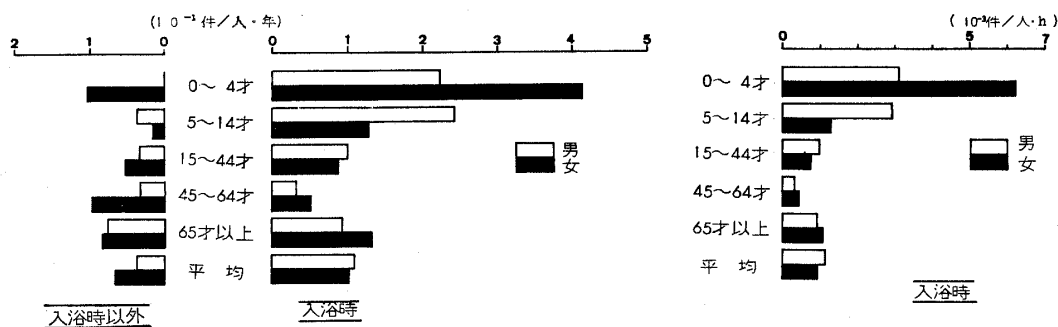


図5. 年齢・性別でみた事故率

図6. 年齢・性別でみた時間当りの事故発生頻度